



佐世保市立福石小学校

所在地 佐世保市大宮町3番地1号
校長 末竹 実
児童数 228名 学級数 12学級 (令和6年5月1日)

1 めざす児童像

『 あたたかい思いやりのある子 』
『 自ら学ぶ、やる気のある子 』
『 たくましく、元気のある子 』



2 テーマ

『 「思いやり」と「やる気」と「元気」のある子どもの育成 』

3 目的

- (1) 変化の激しい社会を生きぬく「確かな学力」の定着を図り、夢(目標)に向かってICTを最大限に活用し、自ら課題を見つけ、解決していこうとする意欲を高める。
- (2) さまざまな人とのふれ合いを通して、他者との関わり方やコミュニケーションの仕方を学び、感謝する心や優しく思いやりのある心を育む。
- (3) 「ふるさと(地域)」に目を向け、地域のよさや魅力を発見し、地域での体験や交流活動を通して、よりよい地域の未来をつくっていこうとする心を育てる。

4 成果と課題

◆「思いやり」のある子

○平和学習(4年、6月)

今年度も、平和公園や原爆資料館の見学に加え、平和案内人の説明を受けながら見学することができた。このことにより、より深く実感を伴いながら、原爆の恐ろしさや、被爆者への思いを巡らせ、平和な世の中にするためにどうすればよいかについて考えを深めることができた。



○花いっぱい運動（全学年、通年）

学校園に季節の花や野菜を植え、潤いある環境づくりに努めた。異学年との交流をおこない、継続して世話をすることで、植物を大切に育てようとする心を育てることができた。



○感謝集会（全学年）

日頃から登下校の見守りでお世話になっている地域の方々へ感謝の気持ちを伝える取組として、今年度初めて感謝集会をおこなった。児童から手紙やメダル、花を贈り、感謝の気持ちを伝えた。地域の皆様とのつながりを大切に持続していけるように、この取組を継続させていく。また今後は児童主体でおこなっていけるように、更に活動を盛り上げていく。



◆「やる気」のある子

○学力調査の実施（2～4学年、4月） 授業改善（全学年、通年）

まず、5・6学年が年度当初に学力調査を実施するのに合わせて、2～4学年児童も習得した学力の実態把握と授業改善のための基礎資料となる学力調査をおこなった。

次に、研究主任を中心にした全職員で、学力調査の結果を分析し、各担任が授業計画に活用した。

特に授業改善においては、効果的な児童用端末の活用と、児童が主体的に学ぶ授業づくりについて、学年の実態に応じた実践を重ねた。予測困難な未来を生きぬく子供達に確かな学力を身に付けさせるため、今後も主体的に学習に取り組む力を育むことが大切である。授業のあり方については、児童の実態を踏まえながら、職員で研修を重ね、実践していくことが肝要である。



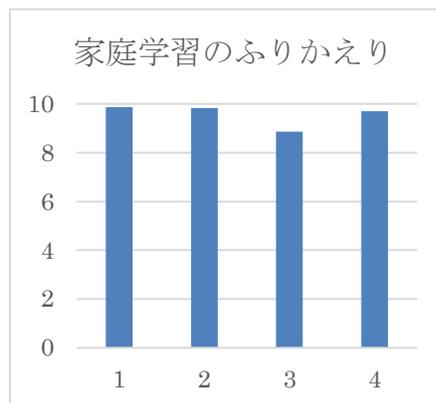
○家庭学習の充実（全学年、通年）

児童が家庭学習を計画的に進められるよう家庭との連携を図りながら、毎月「家庭学習のふり返し」をおこなった。ふり返りの視点は、全学年次の4項目である。

- 1：スケジュールどおりに学習を始めた
- 2：宿題ができた
- 3：宿題以外の学習ができた（読書・自主学習など）
- 4：めあての時間、学習ができた

（低学年は30分間、中学年は40分間、高学年は1時間以上）

特に、「1：スケジュールどおりに学習を始めた」について、家庭学習の充実を図る上で最も大切な項目として家庭と連携し、児童の意識を高めることができた。学年によっては、自主学習が充実し、成果が表れた。今後も啓発活動を行いながら家庭学習の充実を進めていく。



（1～4：ふり返りの視点）

○ふるさと学習の充実（全学年、通年）

令和6年11月17日、本校創立百周年記念式典を開催し、多くの保護者、地域、卒業生の皆様に参列いただいた。式典では、児童が生活科や総合的な学習において自らの課題に取り組み、育った町のよさを見つけた成果を披露することができた。



◆「元気」のある子

○創立百周年記念事業（全学年、通年）

今年度、本校は創立百周年記念事業をおこなった。本事業の周知を主な目的としてのぼり旗を作製し、学校周辺や地域各所に掲げた。PTAや地域の皆様と連携し、未来につながるよりよい福石小学校を思い描きながら、活動を盛り上げることができた。



○情報モラル教育の充実（6年生・学校保健委員会、通年）

SNS 上でのトラブルや、児童の生活時間の乱れ等児童の諸課題の解決に向けて、今年度、児童や保護者を対象に情報モラル教育の場を設定した。

一つ目は、6年生の授業参観において、児童の意識の深まりを目指し、情報モラル教育に関する学習を計画した。児童が班ごとに作成した意見文の発表をもとに、メディア指導員からのアドバイスや情報を得ることで、児童の情報モラルに対する意識の向上を図った。



二つ目は、学校保健委員会の取組として、親子情報モラル教育講演会を実施した。

どちらも、専門家による話を聞くことで、メディアが身体や精神にもたらす影響や、家庭においてメディアと上手に付き合っていくための正しい知識について情報を得ることができた。今後につながる学びの場を得ることができたと大変好評であった。



情報モラル教育の大切さ、学習の場の必要性については、保護者の声としても聞こえてくるようになってきた。今後は、発達段階に応じて、メディアとの関わり方について親子で一緒に考えたり、友達どうし・保護者どうしで語り合ったりする場を設定しながら、年間予定の中に「情報モラル教育」として位置づけていく。